

英語によるサマープログラムの 実施について（報告）

開講期間 平成23年7月19日（火）～7月22日（金）

開講テーマ

テーマ1 「現代日本の家族と労働」

“Issues on Families and Works in Contemporary Japan “

テーマ2 「形・色・美」

“Form, Color and Beauty”

平成23年12月2日

お茶の水女子大学

英語による教育プロジェクトチーム（英語による教育WG）

【実施状況】

実施概要（実施案内）	・・・・・・・・・・	3
（英語版）	・・・・・・・・・・	13
募集広報		
大学HP	・・・・・・・・・・	21
ポスター	・・・・・・・・・・	22
ポスター（英語版）	・・・・・・・・・・	24
サマープログラム開講に伴う対応について	・・・・・・・・・・	26
履修状況	・・・・・・・・・・	28
受講生への連絡事項	・・・・・・・・・・	29
授業担当教員からの感想・反省点・要望・課題等	・・・・・・・・・・	30
受講学生へのアンケート（テーマ2）	・・・・・・・・・・	35

【参考】

英語による教育WG 概念とWGの構成	・・・・・・・・・・	41
「英語による教育」についての教員アンケートの実施	・・・・・・・・・・	46
英語WG 会議メモ	・・・・・・・・・・	49
英語による教育プロジェクトチーム（英語による教育WG） 構成員（プロジェクトチーム設置申請書）	・・・・・・・・・・	55

今夏、英語による 「サマープログラム」を開講！

英語による集中講義を開講します。

留学生を含む本学学生と国内外協定校の特別聴講学生を受け入れます。
充実のプログラムとサポート体制で海外協定校等からの留学生を受け入れます。
一般の方を対象に科目等履修生として受け入れます。

お茶の水女子大学

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進を目指しています。そのための教育改革を進めることは学生のキャリアの選択肢を広げる上でも有益と考えます。

そこで、今年2011年7月、留学生を含む本学学生、並びに国内協定校の特別聴講学生向け(単位互換)に集中講義として開講すると同時に、海外協定校等からの留学生を受け入れ、英語による「サマープログラム」として開講します。

テーマは二つ。講義はすべて英語で行われます。

テーマ1は、「現代日本の家族と労働」 Issues on Families and Works in Contemporary Japan

現代の日本社会では少子高齢化や格差の拡大などにより、家族や労働環境が変化しつつあります。これらの変化そして現状をよりよく理解するためには学際的な解明が必要だと考えます。本講義では社会学、心理学、労働経済学などの視点から現代日本の家族と労働について学ぶことを主な目的としています。オムニバス形式で生活科学部と文教育学部の教員が、それぞれの専門的な立場から日本における家族、教育、子どもの発達、ヘルスリスク、労働市場と職場に関連した講義をわかりやすく英語で解説します。

テーマ2は、「形・色・美」 “Form, Color and Beauty”

私たちが認識する形や色の実体は、物理学、化学、数学、情報学などの理学的な学問により説明されます。また、ヒトを含む生物がそれらを認識する感覚やそれらを見て美しく感じる感性は、生物学や生活科学で理解されます。本講義では、形・色・美に関わるサイエンスについて、理学部や生活科学部の教員がオム

ニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、それぞれの研究分野での最新トピックスについて、わかりやすく紹介します。

二つのテーマの詳細は、別紙の概要をご覧ください。

また、科目等履修生としての履修をご希望の方は、本学ホームページ「科目等履修生の募集について」(http://www.ocha.ac.jp/campuslife/r_auditor.html) をご覧ください。検定料、入学料、授業料が別途必要となります。

《男性のかたへ》

本サマープログラムは、男性の参加も可能です。ただし、**学部**科目等履修生として男性が受講することは、本学の規定によりできません。詳しくは下記へお問い合わせください。

◆お問い合わせ・お申し込みは、

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学 教務チームリーダー 山本 隆 電 話:03-5978-5138

E-mail :kyomu@cc.ocha.ac.jp

サマープログラムの概要

テーマ1 「現代日本の家族と労働」

Issues on Families and Works in Contemporary Japan

期 間 2011年7月19日(火)~7月22日(金)

場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)

担当教員 大学院人間文化創成科学研究科研究院先端融合系 榊原洋一 教授
大学院人間文化創成科学研究科研究院人間科学系 石井クンツ昌子 教授
大学院人間文化創成科学研究科研究院人間科学系 永瀬伸子 教授
大学院人間文化創成科学研究科研究院人間科学系 大森美香 教授
人間発達教育研究センター 垂見裕子 特任助教

定員及び参加対象者 30名 (海外協定校からの推薦/本学学生(学部及び大学院、留学生を含む。)

／国内協定校の特別聴講学生/科目等履修生(一般の方))

※ 人数を超えた場合には選考により参加を決定することがあります。

《講義の概要》

現代の日本社会では少子高齢化や格差の拡大などにより、家族や労働環境が変化しつつあります。これらの変化そして現状をよりよく理解するためには学際的な説明が必要だと考えます。本講義では社会学、心理学、労働経済学などの視点から現代日本の家族と労働について学ぶことを主な目的としています。オムニバス形式で生活科学部と文教育学部の教員が、それぞれの専門的な立場から日本における家族、教育、子どもの発達、ヘルスリスク、労働市場と職場に関連した講義をわかりやすく英語で解説します。

《講義日程》

日程	I・II時限	III・IV時限	V・VI時限	VII・VIII時限
7月19日(火)	垂見裕子① (教育社会学)	垂見裕子②	榊原洋一① (小児科学)	榊原洋一②
20日(水)	垂見裕子③	榊原洋一③	大森美香① (臨床心理学)	大森美香②
21日(木)	大森美香③	永瀬伸子① (労働経済学)	石井クンツ昌子① (家族社会学)	石井クンツ昌子②
22日(金)	永瀬伸子②	永瀬伸子③	石井クンツ昌子③	全体

《講義内容》

Housework and Child Care in Japanese Families

Lecturer: Masako Ishii-Kuntz (Family Sociology)

In these sessions, several topics related to contemporary Japanese families are covered from sociological perspectives. These topics include, among others, marriage, work-life-balance, division of housework and child care, parenting, and socialization of children. We will read and review research articles that appeared in such well-known journals as *Journal of Marriage and Family*, *Family Relations* and *Journal of Family Issues*. Active participation in class discussions will be strongly encouraged. Class evaluations are based on attendance, participation in discussions, and a short written assignment.

現代日本の家族と性別役割分業

講師：石井クンツ昌子（専門：家族社会学）

社会学視点から現代日本の家族に関する様々なトピックについて学ぶことを目的とする。これらのトピックは結婚、ワーク・ライフ・バランス、家庭内役割分業、ペアレンティング、子どもの社会化などである。米国の著名な家族研究ジャーナル（*Journal of Marriage and Family*、*Family Relations*、*Journal of Family Issues*）に掲載された論文を読み、レビューする。クラス内でディスカッションを行うので積極的な参加を期待する。成績は出欠、ディスカッション、短いレポートをもとに決定する。

Family Resources and Student Achievement

Lecturer: Yuko Nonoyama-Tarumi (Sociology of Education, Comparative Education)

In these sessions, we are going to examine inequity in student achievement in Japan. The first part will cover basic sociological theories of why educational inequity exists and persist. The second part will review several empirical studies to examine the effects of family background, parental involvement and parental investment on student achievement. The third part will be discussion on educational inequity based on these findings.

家庭の資源と子どもの学力

講師：垂見裕子（専門：教育社会学・比較教育）

このセクションでは日本における学力格差について学ぶ。第一部では、教育的格差が再生

産される構造や原因を解明するための社会学の主要な理論をレビューする。第二部では、最近の比較教育調査の結果をもとに、親の階層・教育参加・教育投資が子どもの学力に及ぼす影響について検討する。第三部では教育格差についてディスカッションを行う。

Environments and Child Development

Lecturer: Yoichi Sakakihara (Pediatrics, Pediatric Neurology)

Secure development of children is one of the most important issues in child care and education. Since the trajectory of child development is shaped by gene and environments, we need to understand the intricate interplays between gene and environments. In my class, current studies on the relation between child rearing environments and child development will be reviewed. After an introductory lecture on child development, we will read recent papers and make discussions on this topic.

環境が子どもの発達に与える影響

講師：榊原洋一（専門：小児科学・小児神経学）

子育てや幼児教育の最も重要な目標は、子どもの発達を保障することである。子どもの発達には、生得的な遺伝的要因と生育環境によって形作られることを考えると、環境と発達間の複雑な関係を理解する必要がある。本講座では、子どもの発達と環境について概説する。概論についての講義の後、最近の本課題についての論文の講読とディスカッションを行う。

Psychosocial Development and Health-Risk Behaviors during Adolescence

Lecturer: Mika Omori (Clinical Psychology, Health Psychology)

This section invites you to examine adolescent health-risk behaviors from a perspective of psychology. Because of growing awareness of the short- and long-term health consequences of health-risk behaviors, psychosocial determinants of these behaviors have received attention from scholars. This section will be designed to promote your understanding of adolescent health-risk behaviors such as smoking, drug use, and problematic eating. It will also explain how psychosocial correlates contribute the engagement in such behaviors. Participants will enjoy readings, both research papers and general articles, and classroom discussions as well as lecture. **THE MORE YOU INPUT, THE MORE YOU GAIN!**

青年期の心理社会発達とヘルスリスク行動

講師：大森美香（専門：臨床心理学・健康心理学）

このセッションでは、心理学の観点から青年期のヘルスリスク行動を検討する。ヘルスリスク行動の短期的長期的な影響についての認識が高まっており、これらの行動の心理社会的な決定因に注目が集まっている。このセッションでは、喫煙、薬物使用、問題のある食行動などの青年期のヘルスリスク行動の理解を促進することを目的としており、心理社会的な関連要因がこれらの行動にどのように関連しているのかを解説する。具体的には、広義に加え、研究論文と一般の記事の講読や討論を行う。インプットが大きいほど、得るものも大きい。

Japanese Labor Market and Japanese Workplace from Comparative Perspective

Lecturer: Nobuko Nagase (Labor Economics)

The aim of this session is to introduce to you some of the features of Japanese labor market and Japanese workplace. We will first look into the wage structure by gender, age, tenure, and firm size and compare the data to those of the U.S. We will also compare labor participation pattern of man and women and the changes in the past decades between the two countries. In order to search for some of the explanation for the differences between two countries from labor economics and human resource management point of view, we will then discuss and look at the core of and the changes in Japanese employment practices which had often been characterized by long-term employment, seniority pay and company-based union. Wage rules and training system will be reviewed. We will lastly discuss the implication of such labor practice on family life.

日本の労働市場と職場の雇用慣行：米国との比較を視野に

講師：永瀬伸子（専門：労働経済学）

このセッションでは、日本の労働市場と職場の雇用慣行についての理解を深める。米国と日本とを比較し、性別、年齢、勤続、企業規模での賃金構造を日米で比較する。そして男女の就業構造の過去数十年の変化も比較する。労働経済学および人的資源管理論からこうした差異を説明するために、いわゆる日本的雇用慣行とはなにか、長期雇用、年功賃金、企業別組合で通常特徴づけられるといわれるが、その核とその変化について討論する。賃金ルールや訓練の仕組みについて検討する。最後に雇用慣行が家庭生活に与える影響について考える。

サマープログラムの概要

テーマ2 「形・色・美」 “Form, Color and Beauty”

期 間 2011年7月19日(火)～22日(金)

場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)

担当教員	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	伊藤貴之 教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	大塚 譲 教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	近藤るみ 講師
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	服田昌之 准教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	森 義仁 准教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	森川雅博 教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院自然・応用科学系	矢島知子 准教授
	大学院人間文化創成科学研究科研究院先端融合系	由良 敬 教授

定員及び参加対象者 30名 (海外協定校からの推薦 / 本学学生(学部及び大学院、留学生を含む) / 国内協定校の特別聴講学生 / 科目等履修生(一般の方))

※ 人数を超えた場合には選考により参加を決定することがあります。

【講義の概要】

私たちが認識する形や色の実体は、物理学、化学、数学、情報学などの理学的な学問により説明されます。また、ヒトを含む生物がそれらを認識する感覚やそれらを見て美しく感じる感性は、生物学や生活科学で理解されます。本講義では、形・色・美に関わるサイエンスについて、理学部や生活科学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、それぞれの研究分野での最新トピックスについて、わかりやすく紹介します。

【講義日程】

月日	時限	担当教員	専門分野	授業テーマ
7/19(火)	1・2 & 3・4	服田昌之	進化発生学	「動物の変態 / 動物のボディプランにおける軸と対称性」
	5・6 & 7・8	森川雅博	宇宙物理学	「宇宙の色」
7/20(水)	1・2 & 3・4	由良 敬	計算生物学	「タンパク質のかたち: 構造形成から静的構造と動的構造まで」
	5・6 & 7・8	森 義仁	非線形化学	「時間変化の形」
7/21(木)	1・2 & 3・4	矢島知子	有機化学	「有機化合物と色」
	5・6 & 7・8	近藤るみ	分子進化学	「生物のかたちとゲノム」
7/22(金)	1・2 & 3・4	伊藤貴之	コンピュータ グラフィックス	「コンピュータが創る形と色」
	5・6 & 7・8	大塚 譲	食品栄養生化学	「ニュートリゲノミクスと東南アジアの機能性食品 素材植物」

講義内容:「トランスフォーマー:動物の変態」(服田)

多くの動物は現実世界における“トランスフォーマー”である。それらは生活史の中で華麗な変身を遂げる。例えば、芋虫から蝶へ、オタマジャクシから蛙へ。しかし「変態」という語は異なる動物種のような発生過程にあてられてきて、生物学において深刻な混乱を招いてきた。複雑な人間社会における道程発見の練習として、多様な変態過程を整理してその原理を見いだしてみよう。

“Metamorphosis of Animals, the Transformers”

Many animals are the “Transformer” in the real world. They show the brilliant transformation of the form in their life cycles, called metamorphosis, for example, from a caterpillar to a butterfly, from a tadpole to a frog. However, the term “metamorphosis” has been applied to various developmental processes of different animal species to cause serious confusions in biology. We try to clarify diverse metamorphic processes and to find out the principle of metamorphosis, as a lesson for path-finding in this complex human society.

講義内容:「動物のボディプランにおける軸と対称性」(服田)

多様な動物は進化においてひとつの祖先に由来する。この事実は、様々な動物の形は共通の祖先から多様化し、形態の多様性の中に祖先的なボディプランが隠されていることを示唆する。では何が動物の形態の原理、ボディプランなのだろうか。動物は、地球上の動く生物である。この制約は、動物の形態に軸と対称性を与えてきた。軸と対称性に焦点を当てることで、多様な動物の形態形成からボディプランの原理を抽出してみよう。

“Axes and Symmetries in Animal Body Plans”

Diverse animals are derived from a single ancestor in evolution. This fact suggests that various animal forms diversified from a common ancestral body plan that is hidden in their morphological variations. What is the principle of animal form, the body plan? Animals are moving organisms in the planet Earth. This condition has given the axis and symmetry to animal forms. We try to extract the simple principle of animal body plan from diverse animal morphogenesis by focusing on the axis and symmetry.

講義内容:「宇宙の色」(森川)

見える光は僅かでしかないが、宇宙は見えない光に満ちている。その見えない光によって、多彩な宇宙の構造が解明される。実は、本質的に見えないなものか宇宙の骨格を作る重要な構造であったりする。講義では、光の本性を物理学の言葉で説明しながら、その光によって解き明かされる宇宙の形を、皆さんと議論していこう。

“Colors of the Universe”

Visible Universe is limited but light fills the Universe. This invisible light does reveal rich cosmic structures. The most of the Universe is recently disclosed to be made of totally invisible something. In this lecture, we first have discussions on how the light is described

by the law of physics. Then we will enjoy the discussions on cosmic structures observed by visible and invisible light. Active discussions are expected for all the participants.

講義内容:「タンパク質のかたち:構造形成から静的構造と動的構造まで」(由良)

タンパク質は、生物のかたちを形成する物質として主要な役割を果たしている。ゲノムに書き込まれている情報が、どのようにしてタンパク質(物質)に変換され、タンパク質がどのようにして生物のかたちや生命活動を担っているのかを、最新の研究成果を含めながら概観する。

“Protein Structure: From its folding through static and dynamic structure”

Protein plays a major role as an element in forming structure of organisms. Protein is a single chain molecule and its blueprint is encrypted in DNA. Recent studies in computational and molecular biology unveiled how information in DNA converted into a structure of protein and how proteins perform function in a cell. This lecture gives a brief overview of the information flow and mechanisms of protein function through its structure.

講義内容:「時間変化の形」(森)

わたしたちの身の回りには時間変化する事柄がたくさんある。

水の中で広がる一滴のインク。増殖する微生物。進む化学反応。

グラフに表すことができるこれらの時間変化の形の話をする。

“Time Evolution”

We can see many types of time evolutions. They are, diffusion of a droplet, increase of microorganism population, proceeding of a chemical reaction and so on. I talk about those with graphical presentation.

講義内容:「有機化合物と色」(矢島)

有機化合物の色について、着色の原理、化学反応による色の変化について述べる。また、機能性色素としての応用についても例を挙げて説明する。

“Color of Organic Compounds”

There are many colored chemicals in the world. In this lecture we will focus on colored organic compounds and discuss about the theory of color of organic compounds.

Furthermore, we will address some applications of functional organic dyes.

講義内容:「生物のかたちとゲノム」(近藤)

地球上にはじつにさまざまな形をした生物がいます。ヒトも一人一人の顔つきが異なっています。このような生物のかたちの多様性はどのように生じるのでしょうか。生物の遺伝情報(ゲノム)の多様性と進化が生物のかたちの進化にどのように関わっているか一緒に考えてみましょう。

“How do our shape change?”

Organisms on earth possess various morphological traits. Our own face has its individual characteristics. What is behind this remarkable diversity of organism morphology? We will look into genomic variation and evolution and discuss how it may link to changes in morphological traits.

講義内容:「コンピュータが創る形と色」(伊藤)

コンピュータグラフィックスは、情報科学技術を用いて形や色を計算し、画面にさまざまや物体や情景を描く技術である。本講義の前編では、ゲームやアニメ、また工業製品設計などに使われるコンピュータグラフィックスの基本的な技術を、平易に紹介する。本講義の後編では、コンピュータグラフィックスを応用して身の回りのさまざまな情報を図示する「情報可視化」という新しい技術を紹介する。

“Shapes and Colors Represented by Computers”

Computer graphics is a technology that calculates and displays shapes and colors of objects and scenes. The former part of this lecture briefly introduces fundamental techniques of computer graphics which has been applied to computer games and animation, and industrial designs. The latter part of this lecture introduces “information visualization” which represents daily information by extended techniques of computer graphics.

講義内容:「ニュートリゲノミクスと東南アジアの機能性食品素材植物」(大塚)

ポストゲノム時代になり、遺伝子により作られるタンパク質の構造とその発現メカニズムが注目されるようになった。特に食品によって生物の遺伝子発現が変化し、その結果健康への影響が及ぶことから、食品と遺伝子の関係が注目されている。東南アジアのVoiやTramと呼ばれる植物は永年食されてきており安全性が高いが、これらに抗酸化作用や、抗糖尿病作用が認められ、遺伝子の発現の変化を通じて健康に寄与していると思われる。

1. Food and nutrigenomics

In 2001, the draft human genome sequence was published in *Nature*. Recently, in December 2010, *Nature* also published Nutrigenomics in outlook. For many in the developed world, eating has become a leisure pursuit, and cooking a hobby. But our bodies are still hard-wired for a tougher world where food means survival. Food affects people differently. I will present our results on gene expression by foods like mother's milk and nutrients, and a single nucleotide polymorphism with obesity and life style factors.

2. South East Asian plant for health promotion

Our laboratory has been working with Vietnam National Nutritional Institute in Vietnam and National Research Institute of Chinese Medicine in Taiwan since 2001. We found one of edible plant in Vietnam, called Tram, *Syzygium Zeylanicum*, an evergreen tree had powerful antioxidant activity. We also found that Voi, *Cleistocalyx operculatus* (ROXB.) MERR. et PERRY, has also antioxidant and anti-diabetic activities.

Outline of 2011 Summer Program at Ochanomizu University

Theme I: Issues on Families and Works in Contemporary Japan

Period: July 19 (Tue) – 22 (Fri), 2011

Venue: Ochanomizu University (Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo)

Teaching staff: Dr. Yoichi SAKAKIHARA, Professor
Dr. Masako ISHII-KUNTZ, Professor
Dr. Nobuko NAGASE, Professor
Dr. Mika OMORI, Professor
Dr. Yuko NONOYAMA-TARIMI, Assistant Professor

* Lecture capacity for Theme I : 30 eligible students

** If there are more than 30 eligible applicants, they may be subject to a selection process.

Program Summary

Theme I: Issues on Families and Works in Contemporary Japan

Contemporary Japan is facing a low birth rate, an aging population, and growing income disparity, resulting in changes in the family and the labor environment. In order to better understand these changes and existing circumstances, we believe an interdisciplinary approach is most effective. The lectures will primarily examine families and labor issues in contemporary Japan from the perspectives of sociology, psychology and labor economics. Teaching staff from the Faculty of Human Life and Environmental Sciences and the Faculty of Letters and Education will present their perspectives from their own field of expertise to examine issues in Japan pertaining to the family, education, child development, health risks, the labor market and the workplace. This will ensure an overall comprehensive approach. The lectures will be given in English, using language that is easy to understand.

Schedule

Date	Period 1 & 2	Period 3 & 4	Period 5 & 6	Period 7 & 8
July 19 (Tue)	Yuko Tarumi 1 (Sociology of Education)	Yuko Tarumi 2	Yoichi Sakakihara 1 (Pediatrics)	Yoichi Sakakihara 2
20 (Wed)	Yuko Tarumi 3	Yoichi Sakakihara 3	Omori Mika 1 (Clinical Psychology)	Omori Mika 2
21 (Thu)	Omori Mika 3	Nobuko Nagase 1 (Labor Economics)	Masako Ishii-Kuntz 1 (Family Sociology)	Masako Ishii-Kuntz 2
22 (Fri)	Nobuko Nagase 2	Nobuko Nagase 3	Masako Ishii-Kuntz 3	Wrap-up session

Lecture summary

Housework and Child Care in Japanese Families

Lecturer: Masako Ishii-Kuntz (Family Sociology)

In these sessions, several topics related to contemporary Japanese families are covered from sociological perspectives. These topics include, among others, marriage, work-life-balance, division of housework and child care, parenting, and socialization of children. We will read and review research articles that appeared in such well-known journals as *Journal of Marriage and Family*, *Family Relations* and *Journal of Family Issues*. Active participation in class discussions will be strongly encouraged. Class evaluations are based on attendance, participation in discussions, and a short written assignment.

Family Resources and Student Achievement

Lecturer: Yuko Nonoyama-Tarumi (Sociology of Education, Comparative Education)

In these sessions, we are going to examine inequity in student achievement in Japan. The first part will cover basic sociological theories of why educational inequity exists and persist. The second part will review several empirical studies to examine the effects of family background, parental involvement and parental investment on student achievement. The third part will be discussion on educational inequity based on these findings.

Environments and Child Development

Lecturer: Yoichi Sakakihara (Pediatrics, Pediatric Neurology)

Secure development of children is one of the most important issues in child care and education. Since the trajectory of child development is shaped by gene and environments, we need to understand the intricate interplays between gene and environments. In my class, current studies on the relation between child rearing environments and child development will be reviewed. After an introductory lecture on child development, we will read recent papers and make discussions on this topic.

Psychosocial Development and Health-Risk Behaviors during Adolescence

Lecturer: Mika Omori (Clinical Psychology, Health Psychology)

This section invites you to examine adolescent health-risk behaviors from a perspective of psychology. Because of growing awareness of the short- and long-term health consequences of health-risk behaviors, psychosocial determinants of these behaviors have received attention from scholars. This section will be designed to promote your understanding of adolescent health-risk behaviors such as smoking, drug use, and problematic eating. It will also explain how psychosocial correlates contribute the engagement in such behaviors. Participants will enjoy readings, both research papers and general articles, and classroom discussions as well as lecture. THE MORE YOU INPUT, THE MORE YOU GAIN!

Japanese Labor Market and Japanese Workplace from Comparative Perspective

Lecturer: Nobuko Nagase (Labor Economics)

The aim of this session is to introduce to you some of the features of Japanese labor market and Japanese workplace. We will first look into the wage structure by gender, age, tenure, and firm size and compare the data to those of the U.S. We will also compare labor participation pattern of man and women and the changes in the past decades between the two countries. In order to search for some of the explanation for the differences between two countries from labor economics and human resource management point of view, we will then discuss and look at the core of and the changes in Japanese employment practices which had often been characterized by long-term employment, seniority pay and company-based union. Wage rules and training system will be reviewed. We will lastly discuss the implication of such labor practice on family life.

Application form for Ochanomizu Summer Program 2011

Applicant No. 1	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 2	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 3	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 4	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 5	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	

Please send this application form to kyomu@cc.ocha.ac.jp during June 1 and 20, 2011.

Outline of 2011 Summer Program at Ochanomizu University

Theme II: Form, Color and Beauty

Period: July 19 (Tue) – 22 (Fri), 2011

Venue: Ochanomizu University (Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo)

Teaching staff: Dr. Takayuki ITO, Professor
Dr. Yuzuru OTSUKA, Professor
Dr. Rumi KONDO, Lecturer
Dr. Masayuki HATTA, Associate Professor
Dr. Yoshihito MORI, Associate Professor
Dr. Masahiro MORIKAWA, Professor
Dr. Tomoko YAJIMA, Associate Professor
Dr. Kei YURA, Professor

* Lecture capacity for Theme II : 30 eligible students

** If there are more than 30 eligible applicants, they may be subject to a selection process.

Program Summary

The physical nature of what we recognize as form and color is examined and explained by the sciences, especially physics, chemistry, mathematics and information science. Living creatures, including of course human beings, are conscious of form and color through the senses, and this sensitivity lets us appreciate their beauty. This appreciation is understood from the perspective of biology and life science. The lectures examine and explain the science of form, color and beauty, and are given in English by teaching staff in the Faculty of Science and the Faculty of Human Life and Environmental Sciences. Each lecturer will present, in simple terms, the latest areas of interest in their own field of expertise. This will ensure an overall comprehensive approach.

Timetable

Date	Period 1 & 2	Period 3 & 4	Period 5 & 6	Period 7 & 8
July 19 (Tue)	Masayuki Hatta (Evolutionary Developmental Biology)		Masahiro Morikawa (Astrophysics)	
20 (Wed)	Kei Yura (Computational Biology)		Yoshihito Mori (Nonlinear chemistry)	
21 (Thu)	Tomoko Yajima (Organic Chemistry)		Rumi KONDO (Molecular Evolution)	
22 (Fri)	Takayuki Ito (Computer Graphics)		Yuzuru Otsuka (Food and nutritional biochemistry)	

“Metamorphosis of Animals, the Transformers”

Lecturer: Masayuki Hatta

Many animals are the “Transformer” in the real world. They show the brilliant transformation of the form in their life cycles, called metamorphosis, for example, from a caterpillar to a butterfly, from a tadpole to a frog. However, the term “metamorphosis” has been applied to various developmental processes of different animal species to cause serious confusions in biology. We try to clarify diverse metamorphic processes and to find out the principle of metamorphosis, as a lesson for path-finding in this complex human society.

”Axes and Symmetries in Animal Body Plans”

Lecturer: Masayuki Hatta

Diverse animals are derived from a single ancestor in evolution. This fact suggests that various animal forms diversified from a common ancestral body plan that is hidden in their morphological variations. What is the principle of animal form, the body plan ? Animals are moving organisms in the planet Earth. This condition has given the axis and symmetry to animal forms. We try to extract the simple principle of animal body plan from diverse animal morphogenesis by focusing on the axis and symmetry.

“How do our shape change?”

Lecturer: Rumi Kondo

Organisms on earth possess various morphological traits. Our own face has its individual characteristics. What is behind this remarkable diversity of organism morphology? We will look into genomic variation and evolution and discuss how it may link to changes in morphological traits.

“Protein Structure: From its folding through static and dynamic structure”

Lecturer: Kei Yura

Protein plays a major role as an element in forming structure of organisms. Protein is a single chain molecule and its blueprint is encrypted in DNA. Recent studies in computational and molecular biology unveiled how information in DNA converted into a structure of protein and how proteins perform function in a cell. This lecture gives a brief overview of the information flow and mechanisms of protein function through its structure.

“Time Evolution”

Lecturer: Yoshihito Mori

We can see many types of time evolutions. They are, diffusion of a droplet, increase of microorganism population, proceeding of a chemical reaction and so on. I talk about those with graphical presentation.

“Color of Organic Compounds”

Lecturer: Tomoko Yajima

There are many colored chemicals in the world. In this lecture we will focus on colored organic compounds and discuss about the theory of color of organic compounds. Furthermore, we will address some applications of functional organic dyes.

“Colors of the Universe”

Lecturer: Masahiro Morikawa

Visible Universe is limited but light fills the Universe. This invisible light does reveal rich cosmic structures. The most of the Universe is recently disclosed to be made of totally invisible something. In this lecture, we first have discussions on how the light is described by the law of physics. Then we will enjoy the discussions on cosmic structures observed by visible and invisible light. Active discussions are expected for all the participants.

“Shapes and Colors Represented by Computers”

Lecturer: Takayuki Ito

Computer graphics is a technology that calculates and displays shapes and colors of objects and scenes. The former part of this lecture briefly introduces fundamental techniques of computer graphics which has been applied to computer games and animation, and industrial designs. The latter part of this lecture introduces “information visualization” which represents daily information by extended techniques of computer graphics.

“1. Food and nutrigenomics”

Lecturer: Yuzuru Otsuka

In 2001, the draft human genome sequence was published in *Nature*. Recently, in December 2010, *Nature* also published Nutrigenomics in outlook. For many in the developed world, eating has become a leisure pursuit, and cooking a hobby. But our bodies are still hard-wired for a tougher world where food means survival. Food affects people differently. I will present our results on gene expression by foods like mother's milk and nutrients, and a single nucleotide polymorphism with obesity and life style factors.

“2. South East Asian plant for health promotion”

Lecturer: Yuzuru Otsuka

Our laboratory has been working with Vietnam National Nutritional Institute in Vietnam and National Research Institute of Chinese Medicine in Taiwan since 2001. We found one of edible plant in Vietnam, called Tram, *Syzygium Zeylanicum*, an evergreen tree had powerful antioxidant activity. We also found that Voi, *Cleistocalyx operculatus* (ROXB.) MERR. et PERRY, has also antioxidant and anti-diabetic activities.

Application form for Ochanomizu Summer Program 2011

Applicant No. 1	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 2	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 3	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 4	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	
Applicant No. 5	
University	
Faculty/Department	
Grade	
Name	

Please send this application form to kyomu@cc.ocha.ac.jp during June 1 and 20, 2011.



News & Info

今夏、英語による「サマープログラム」を開講！

英語による集中講義を開講します。

留学生を含む本学学生と国内外協定校の特別聴講学生を受け入れます。
充実のプログラムとサポート体制で海外協定校等からの留学生を受け入れます。
一般の方を対象に科目等履修生として受け入れます。

お茶の水女子大学

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進を目指しています。そのための教育改革を進めることは学生のキャリアの選択肢を広げる上でも有益と考えます。

そこで、今年2011年7月、留学生を含む本学学生、並びに国内協定校の特別聴講学生向け(単位互換)に集中講義として開講すると同時に、海外協定校等からの留学生を受け入れ、英語による「サマープログラム」として開講します。

|| テーマは二つ 講義はすべて英語で行われます

<テーマ1> 「現代日本の家族と労働」"Issues on Families and Works in Contemporary Japan"

現代の日本社会では少子高齢化や格差の拡大などにより、家族や労働環境が変化しつつあります。これらの変化そして現状をよりよく理解するためには学際的な解明が必要だと考えます。本講義では社会学、心理学、労働経済学などの視点から現代日本の家族と労働について学ぶことを主な目的としています。オムニバス形式で生活科学部と文教育学部の教員が、それぞれの専門的な立場から日本における家族、教育、子どもの発達、ヘルスリスク、労働市場と職場に関連した講義をわかりやすく英語で解説します。

[📄 テーマ1の概要\(PDF\)](#)

<テーマ2> 「形・色・美」"Form, Color and Beauty"

私たちが認識する形や色の実体は、物理学、化学、数学、情報学などの理学的な学問により説明されます。また、ヒトを含む生物がそれらを認識する感覚やそれらを見て美しく感じる感性は、生物学や生活科学で理解されます。本講義では、形・色・美に関わるサイエンスについて、理学部や生活科学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、それぞれの研究分野での最新トピックスについて、わかりやすく紹介します。

[📄 テーマ2の概要\(PDF\)](#)

二つのテーマの詳細は、それぞれ次の概要([テーマ1\(PDF\)](#)、[テーマ2\(PDF\)](#))をご覧ください。

科目等履修生としての履修をご希望の方は、本学ホームページ「科目等履修生の募集について」(http://www.ocha.ac.jp/campuslife/r_auditor.html) をご覧ください。検定料、入学金、授業料が別途必要となります。

<男性のかたへ>

本サマープログラムは、男性の参加も可能です。ただし、学部科目等履修生として男性が受講することは、本学の規定によりできません。詳しくは下記へお問い合わせください。

【お問い合わせ・お申し込み】

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学 教務チームリーダー 山本 隆
Tel: 03-5978-5138
E-mail: kyomu@cc.ocha.ac.jp

[🏠 前のページに戻る](#)

[アクセス](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)

Copyright©2007 Ochanomizu University. All Rights Reserved.

今夏、英語による 「サマープログラム」を開講!

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進を目指しています。そのための教育改革を進めることは学生のキャリアの選択肢を広げる上でも有益と考えます。

そこで、今年 2011 年 7 月、留学生を含む本学学生、並びに国内協定校の特別聴講学生向け(単位互換)に集中講義として開講すると同時に、海外協定校等からの留学生を受け入れ、英語による「サマープログラム」として開講します。また、一般の方を対象に科目等履修生として受け入れます。テーマは下記の 2 つで、質、量ともに充実したプログラムを用意しました。

<テーマ1>「現代日本の家族と労働」 Issues on Families and Works in Contemporary Japan

期 間 2011年7月19日(火)～22日(金)
場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)
講義の概要 現代の日本社会では少子高齢化や格差の拡大などにより、家族や労働環境が変化しつつあります。これらの変化そして現状をよりよく理解するためには学際的な解明が必要だと考えます。本講義では社会学、心理学、労働経済学などの視点から現代日本の家族と労働について学ぶことを主な目的としています。オムニバス形式で生活科学部と文教育学部の教員が、それぞれの専門的な立場から日本における家族、教育、子どもの発達、ヘルスリスク、労働市場と職場に関連した講義をわかりやすく解説します。

<テーマ2>「形・色・美」 “Form, Color and Beauty”

期 間 2011年7月19日(火)～22日(金)
場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)
講義の概要 私たちが認識する形や色の実体は、物理学、化学、数学、情報学などの理学的な学問により説明されます。また、ヒトを含む生物がそれらを認識する感覚やそれらを見て美しく感じる感性は、生物学や生活科学で理解されます。本講義では、形・色・美に関わるサイエンスについて、理学部や生活科学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、それぞれの研究分野での最新トピックスについて、わかりやすく紹介します。

※講義はすべて英語で行われます。

※受講対象は

- (1)留学生を含む本学学生(学部及び大学院)と国内協定校の特別聴講学生です。
- (2)充実のプログラムとサポート体制で海外協定校等からの留学生を受け入れます。
- (3)一般の方は、科目等履修生として受け入れます。

(本学 HP : http://www.ocha.ac.jp/campuslife/r_auditor.html)

※募集定員 テーマ1、テーマ2とも各30名

※※定員を超えた場合には選考により参加を決定することがあります。

※日程等は本学 HP をご覧ください。

(本学 HP : <http://www.ocha.ac.jp/topics/h230524.html>)

◆お問い合わせ・お申し込み◆

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 教務チームリーダー 山本 隆
電 話 : 03-5978-5138 E-mail : kyomu@cc.ocha.ac.jp

今夏、英語による「サマープログラム」を開講!

お茶の水女子大学では、国際化戦略の一環として、国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進を目指しています。そのための教育改革を進めることは学生のキャリアの選択肢を広げる上でも有益と考えます。

そこで、今年2011年7月、留学生を含む本学学生、並びに国内協定校の特別聴講学生向け(単位互換)に集中講義として開講すると同時に、海外協定校等からの留学生を受け入れ、英語による「サマープログラム」として開講します。また、一般の方を対象に科目等履修生として受け入れます。テーマは下記の2つで、質、量ともに充実したプログラムを用意しました。

<テーマ1>「現代日本の家族と労働」

Issues on Families and Works in Contemporary Japan

期 間 2011年7月19日(火)～22日(金)

場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)

講義の概要 現代の日本社会では少子高齢化や格差の拡大などにより、家族や労働環境が変化しつつあります。これらの変化そして現状をよりよく理解するためには学際的な解明が必要だと考えます。本講義では社会学、心理学、労働経済学などの視点から現代日本の家族と労働について学ぶことを主な目的としています。オムニバス形式で生活科学部と文教育学部の教員が、それぞれの専門的な立場から日本における家族、教育、子どもの発達、ヘルスリスク、労働市場と職場に関連した講義をわかりやすく英語で解説します。

<テーマ2>「形・色・美」“Form, Color and Beauty”

期 間 2011年7月19日(火)～22日(金)

場 所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚)

講義の概要 私たちが認識する形や色の実体は、物理学、化学、数学、情報学などの理学的な学問により説明されます。また、ヒトを含む生物がそれらを認識する感覚やそれらを見て美しく感じる感性は、生物学や生活科学で理解されます。本講義では、形・色・美に関わるサイエンスについて、理学部や生活科学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、それぞれの研究分野での最新トピックスについて、わかりやすく紹介します。

※講義はすべて英語で行われます。

※受講対象は

- (1)留学生を含む本学学生(学部及び大学院)と国内協定校の特別聴講学生です。
- (2)充実のプログラムとサポート体制で海外協定校等からの留学生を受け入れます。
- (3)一般の方は、科目等履修生として受け入れます。

(本学 HP : http://www.ocha.ac.jp/campuslife/r_auditor.html)

※募集定員 テーマ1、テーマ2ともに各30名

※定員を超えた場合には選考により参加を決定することがあります。

※日程等は本学 HP をご覧ください。

(本学 HP : <http://www.ocha.ac.jp/topics/h230524.html>)

◆お問い合わせ・申し込み◆ 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 教務チームリーダー 山本 隆
電 話 : 03-5978-5138 E-mail : kyomu@cc.ocha.ac.jp

2011 Summer Program in English at Ochanomizu University

Period: **July 19-22**

Ochanomizu University's international strategies include these two goals: the education of people who wish to pursue an active career on the international stage, and the promotion of student interchange. We feel that advancing educational reform to achieve these

goals will be beneficial in broadening our students' career options.

In this regard, we have organized a summer program in English for July 2011. The program will offer a series of lectures.

The program is comprehensive in both quality and quantity, and offers the choice of two themes.

<Theme I: Issues on Families and Works in Contemporary Japan>

Contemporary Japan is facing a low birth rate, an aging population, and growing income disparity, resulting in changes in the family and the labor environment. In order to better understand these changes and existing circumstances, we believe an interdisciplinary approach is most effective. The lectures will primarily examine families and labor issues in contemporary Japan from the perspectives of sociology, psychology and labor economics. Teaching staff from the Faculty of Human Life and Environmental Sciences and the Faculty of Letters and Education will present their perspectives from their own field of expertise to examine issues in Japan pertaining to the family, education, child development, health risks, the labor market and the workplace. This will ensure an overall comprehensive approach. The lectures will be given in English, using language that is easy to understand.

<Theme II: Form, Color and Beauty>

The physical nature of what we recognize as form and color is examined and explained by the sciences, especially physics, chemistry, mathematics and information science. Living creatures, including of course human beings, are conscious of form and color through the senses, and this sensitivity lets us appreciate their beauty. This appreciation is understood from the perspective of biology and life science. The lectures examine and explain the science of form, color and beauty, and are given in English by teaching staff in the Faculty of Science and the Faculty of Human Life and Environmental Sciences. Each lecturer will present, in simple terms, the latest areas of interest in their own field of expertise. This will ensure an overall comprehensive approach.

***All classes are conducted in English.**

- The courses will be open to Ochanomizu students, including international students, and special auditors from associated educational institutions in Japan and abroad.
- Eligible international students from associated educational institutions abroad will be accepted under a comprehensive program that includes an extensive support system.
- Eligible individuals from the general population can be accepted as credit-earning students.

**** Lecture capacity : 30 eligible students for each Theme**

**** If there are more than 30 eligible applicants, they may be subject to a selection process.**

To apply, and for further information, please contact:

Takashi Yamamoto, Director of the Academic Affairs Office
Ochanomizu University 2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610
Phone : +81-3-5978-5138 E-mail : kyomu@cc.ocha.ac.jp

2011 Summer Program in English at Ochanomizu University

Period: July 19(Tue) – 22(Fri), 2011

Ochanomizu University's international strategies include these two goals: the education of people who wish to pursue an active career on the international stage, and the promotion of student interchange. We feel that advancing educational reform to achieve these goals will be beneficial in broadening our students' career options.

In this regard, we have organized a summer program in English for July 2011. The program will offer a series of lectures.

The program is comprehensive in both quality and quantity, and offers the choice of two themes.

<Theme I: Issues on Families and Works in Contemporary Japan>

Contemporary Japan is facing a low birth rate, an aging population, and growing income disparity, resulting in changes in the family and the labor environment. In order to better understand these changes and existing circumstances, we believe an interdisciplinary approach is most effective. The lectures will primarily examine families and labor issues in contemporary Japan from the perspectives of sociology, psychology and labor economics. Teaching staff from the Faculty of Human Life and Environmental Sciences and the Faculty of Letters and Education will present their perspectives from their own field of expertise to examine issues in Japan pertaining to the family, education, child development, health risks, the labor market and the workplace. This will ensure an overall comprehensive approach. The lectures will be given in English, using language that is easy to understand.

<Theme II: Form, Color and Beauty>

The physical nature of what we recognize as form and color is examined and explained by the sciences, especially physics, chemistry, mathematics and information science. Living creatures, including of course human beings, are conscious of form and color through the senses, and this sensitivity lets us appreciate their beauty. This appreciation is understood from the perspective of biology and life science. The lectures examine and explain the science of form, color and beauty, and are given in English by teaching staff in the Faculty of Science and the Faculty of Human Life and Environmental Sciences. Each lecturer will present, in simple terms, the latest areas of interest in their own field of expertise. This will ensure an overall comprehensive approach.

***All classes are conducted in English.**

- **The courses will be open to Ochanomizu students, including international students, and special auditors from associated educational institutions in Japan and abroad.**
- **Eligible international students from associated educational institutions abroad will be accepted under a comprehensive program that includes an extensive support system.**
- **Eligible individuals from the general population can be accepted as credit-earning students.**

**** Lecture capacity : 30 eligible students for each Theme**

**** If there are more than 30 eligible applicants, they may be subject to a selection process.**

To apply, and for further information, please contact:

Takashi Yamamoto,
Director of the Academic Affairs Office
Ochanomizu University
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610
Phone : +81-3-5978-5138
E-mail : kyomu@cc.ocha.ac.jp

サマープログラム開講に伴う対応について（全体版）

I 代表教員

テーマ1「現代日本の家族と労働」：榊原洋一教授

テーマ2「形・色・美」：小林哲幸教授

※ 代表教員は、成績の取りまとめも担当願う。

II 科目名

テーマ1「現代日本の家族と労働」

学部：総合コース

大学院：Special Lectures in Humanities and Science I（平成23年度新設科目）

テーマ2「形・色・美」

学部：総合コース

大学院：Special Lectures in Humanities and Science II（平成23年度新設科目）

III 担当学部及び専攻

テーマ1「現代日本の家族と労働」

学部：生活科学部

大学院：博士前期課程 人間発達科学専攻

博士後期課程 人間発達科学専攻

テーマ2「形・色・美」

学部：理学部

大学院：博士前期課程 ライフサイエンス専攻

博士後期課程 ライフサイエンス専攻

IV 履修者受入れ審議

科目等履修生

※ 上記Ⅲの担当学部並びに専攻及び代議員会で審議

●テーマ1 なし

テーマ2 なし

特別聴講学生

国内協定校 特別聴講学生の受入れとして審議

海外協定校 大学間交流協定に基づく交換留学生（特別聴講学生）の受入れとして審議

※ 上記Ⅲの担当学部並びに専攻及び代議員会で審議

●国内協定校 特別聴講学生の受入れ

テーマ1 学部 3名

博士前期課程 1名

博士後期課程 なし

テーマ2 学部 なし

博士前期課程 7名

博士後期課程 なし

●海外協定校 大学間交流協定に基づく交換留学生（特別聴講学生）の受入れ

テーマ1 学部 1名

博士前期課程 なし

博士後期課程 なし

テーマ2 学部 なし

博士前期課程 なし

博士後期課程 2名

V 担当教員審議

大学院博士前期課程担当教員

※ 上記Ⅲの担当専攻及び代議員会で審議

※ 小林哲幸教授は、授業は担当しないものの代表者となるため資格審査願う。

非常勤講師

※ 上記Ⅲの担当専攻及び代議員会で審議

英語によるサマープログラム履修者状況（23. 7. 19 / 最終）

◆テーマ1 「現代日本の家族と労働」

学部生	15	(7/15 1名追加、7/19 1名追加)
大学院生	3	(M: 2、D: 1)
科目等履修生	0	
国内協定校：学部	1	(芸大: 1)
: 大学院	1	(東大M: 1)
海外協定校：学部	0	
: 大学院	0	
計	20	

※国内協定校：学部：外国語大の2名が辞退（当日（19日）、大学からの連絡）

理由：本校の集中講義と重なったため

※海外協定校：学部：ブカレスト大の1名が辞退

理由：他大学での研修と重なったため

◆テーマ2 「形・色・美」

学部生	16	
大学院生	3	(M: 3)
科目等履修生	0	
国内協定校：学部	0	
: 大学院	7	(東大M: 7)
海外協定校：学部	0	
: 大学院	2	(ブッパタール大D: 2)
計	28	

平成23年7月7日

本学サマープログラム受講学生 各位

お茶の水女子大学教務チームリーダー
山本 隆

本学サマープログラム受講に伴う連絡事項について

本学サマープログラムを受講いただくことになり、ありがとうございます。
受講にあたり下記の事項を連絡いたします。

記

1. 本学における授業科目名

テーマ1 「現代日本の家族と労働」

学部 : 総合コース

大学院 : Special Lectures in Humanities and Sciences I

テーマ2 「形・色・美」

学部 : 総合コース

大学院 : Special Lectures in Humanities and Sciences II

2. 教室

テーマ1 「現代日本の家族と労働」

: 大学本館3階306室

テーマ2 「形・色・美」

: 大学本館2階209室 (生活科学部第6講義室)

※建物の位置は次のURLで確認願います。

URL : <http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

3. 持ち物

学生証 ※入構の際、守衛所に掲示願います。

4. ウェルカムパーティの実施

初日である7月19日(火)に、簡単ではありますが、昼食を用意しての立食形式のウェルカムパーティを開催します。場所は、大学食堂を予定しておりますが7月19日(火)の午前の授業でご案内いたします。受講生同士または教員との交流の場として開催しますのでぜひご参加ください。

5. 講義最終日のパーティの実施

講義最終日となる7月22日(金)には、受講生の皆様と本学関係教員によるパーティを、会費(1,000円)制により開催する予定です。

詳細は、あらためてご案内いたします。

【担当】

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学 教務チーム

電話 : 03-5978-2722 (学部教務係)

: 5822 (大学院教務係)

E-mail : kyomu@cc.ocha.ac.jp

「英語による教育」WGミーティング

2011年11月4日

2011年度のサマープログラムについて (石井クンツ昌子)

全体的な感想

第一回目かつ準備期間が少なかったことを考慮すると、今回のサマープログラムは成功であったと思う。

良かった点

1. お茶大生の英語力の把握と「やる気」を起こさせたこと
2. 他校あるいは留学生との交流 (懇親会など)
3. 英語によるスモールグループディスカッションの利点
4. レポートの質
5. 「まとめ」セッション (教員の経験談)

反省点

1. 短期なのでどうしても授業の内容が「浅く」なってしまうこと
2. 英語力の差による学生の参加度 (ディスカッションなど) の違い (学生の議論への参加を促す方法を考える必要がある)
3. 留学生が参加していれば「刺激」になって良かったと思う

今後の課題

1. サマープログラムの中長期的な位置づけ
 - ① サマープログラムを通常の授業とどのように関連させていくのか
 - ② お茶大の「英語による教育」の目標設定 (数値を含む) が必要ではないか
2. サマープログラムとタイアップした海外校との協定 (NYI、EAIIEでのPRなど)
3. サマープログラムが毎回一部の教員のみを担当とならないように、他の教員への参加奨励・要請を組織的に進めていくことが重要

平成 23 年度英語サマープログラム テーマ2(理系)

意見、課題、反省点などのまとめ（授業を担当した教員の意見）

【来年度への継続性について】

- ・ぜひともしばらく継続をして、理系学生の様子を測定すべき。
- ・来年も同じ形式で続けると良い。
- ・受講生の人数、時間等は、適当だったと思う。したがって、サマープログラムとしては、今後も同じような形式で続けても良いとは思ふ。しかし、学生よりも教員の方が頭を使い、また、勉強になったのではないかというところが正直な感想である。

【授業の形態、内容、レベル設定などに関わること】

- ・理系コースとはいえ分野が多岐に渡り、教養科目の内容・難易度に設定することになるので、文系学生(特に留学生)の参加を呼びかけてもいいと思った。
- ・分野が多方面だったので、受講生の興味とプログラムの中身が一致したのかが知りたかった。特にドイツからの履修学生の講義感想を知りたかった。
- ・理系プログラムにおいて、教員は学生に、「英語による専門の講義を聴いて理解する」能力を期待するのか、「英語による専門分野のディスカッション」能力を期待するのかを、ある程度明確にしておいた方がよい(授業の形態に関わる事項)。
- ・普段日本語で行っている授業の英語版か、あるいはまったく新しい内容にすべきか(学生から「なんだあ、いつもの授業の英語版かあ」と言われましたので)。
- ・初めての試みだったために授業形式など決断するのが直前となってしまったことは個人的な反省点。来年以降に担当される方々にとっては、今年の様子を知ることは大いに参考になると思う。
- ・講義した側としては、受講生の background(学年、専門分野)が様々であったために、基礎から最新のトピックスまでの話を、限られた時間で出来るだけ平易な英語で展開して行くには、どうしたら良いか準備の段階では非常に悩んだ。最終的には、動画や写真を多く使いながら大事なメッセージだけを伝えるようにした。また、「英語」を使うことがポイントであるため、できるだけ、受講生に質問を投げかけ、答えてもらうようにした。受講生の受け答えがしっかりしていたので、講義内容も理解してもらえたのではないかといい感触はあったが、実際の受講生の感想はどうだったのか、知りたいところである。
- ・欲をいえば、この形式では教養的な内容にならざるを得ないし、学生側がどうしても受身になりがちである。学部生の語学の授業や教養(LA)の授業としてこのような授業を取り入れるのは、大変良いと思うが、大学院としてはどうだろうか。

本来、大学院のレベルでは、学生自らが、発表し、discussion すべきではないだろうか。私がカナダの University of British Columbia で受けた大学院の授業はそのような形式がほとんどであった。英語でどのように説明すればよいか、せりふを考え、自然に口から出てくるようになるまで練習し、

原稿を見ないで発表する、その過程が非常に大事であり、そのような経験を重ねて初めて英語が使えるようになるものだと思う。それを1回経験するかしないかは、大変大きな違いがある。英語で授業を聞くのとは、比べ物にならない効果が実際に期待できる。大学院生として、是非一度は経験すべきだと思う。つまり、30分位の発表とdiscussionの時間を各学生にあたえて、自分の研究内容ではなく、最近話題になっているトピックス(英語の総説や論文を読んで発表できるようなもの)について、専門外にも分かりやすいように説明する発表とdiscussion形式の授業にする方が、学生にとってはるかに勉強になると思う。この形式をとるには、発表する学生の準備期間として、1ヶ月位時間がほしいところである。また、discussionを活発にするためには、トピックスや参考文献をあらかじめ、受講生に知らせておき、予習を促すことが大事である。評価は発表とdiscussionの内容で行う。シカゴ大学の大学院生は中国などからの外国人留学生が多いが、このような学生が中心となるセミナー形式の授業を行っている。そこでは、全員が参考文献を読んでくることが要求され、発表者は事前に教員にパワーポイントのスライドを見せて発表内容の指導を受けることになっているそうである。したがって、プレゼンテーションの仕方についてもしっかり訓練を受けることになっていて、聞くに堪えないような発表になることはない。

希望制にすると受講生が出ない可能性が高いので、必修にしても良いと思う。たとえば、ライフサイエンス論を小グループに分けてこのような形式にしても良いのではないかと。今回、授業を担当して、学生達にはそのような力があると感じた。

【OCW や FD 活動との関係から】

- せっかく録画していただいたので有効活用するとよいと思う。
- さらに広げて、許諾をいただくことができた先生方の録画を、他の教員が視聴できるようにして、FDとして活用してはどうか。

【留学生、国外からの参加】

- ブッパタールから2名の参加があったことは、学生にとって大きなプラスであったと思う。海外からの参加があるように準備できると思う。また留学生の参加がもっとあればよかったと思う。
- 例えば梨花女子大などの協定大学からごそつと理系学生を招へいして、英語の授業をすれば、学生の刺激にもなる。
- 理系コースとはいえ分野が多岐に渡り、教養科目の内容・難易度に設定することになるので、文系学生(特に留学生)の参加を呼びかけてもいいと思った。

【出席状況、成績評価】

- レポートの提出者が少なかった(16/26, 聴講2名を除く。8名は半分以下の出席。半分以上出席しながらレポート未提出が2名)。レポート課題の通知方法に工夫が必要。
- 提出した課題の英文もしっかりしていたものが多かった。ヒアリングと作文の力は、それなりにあるので、使いこなす訓練をもっとした方が良いと感じた。
- 受講者から、他大学から来られた一部の学生の受講態度のせいで、非常に気が散った、との話が

あった。話を聞く限り、パソコンで内職をしていた、ひそひそ話をしていた、というレベルのものだが、お茶大生は(私が観察する限り)比較的行儀が良いので、そのようなことでも気が散るのかも。

【プログラムの満足度について】

- レポート課題の一つであった講義の感想を授業担当教員へフィードバックする必要性を感じた。
- 受講生による授業アンケートを実施すると良かった。

英語によるサマープログラムの実施に関する意見等 (授業担当教員)

- とても良い試みだと思いました。
- 語学力のあるやる気のある学生たちで、海外経験はないものも少なからずおり感心しました。
- 私自身、この授業を楽しく提供できました。
- 一方で脱落者がかなりいたのも事実かと思えます。
- 応募したい気持ちはあっても脱落してしまう英語力水準の学生に対して何かできるかどうか、ということは議論しても良い点かと思いました。

【以上、文系プログラム担当教員】

“Comments or essay about the lectures throughout program II”

1) -----

Each lecture was very interesting and instructive for me. I was much interested in the other fields besides my major, but at the same time I realized I should learn English more. Although I sometimes didn't understand what the professors were talking about, I was lucky to be able to ask the professors in Japanese here in Ochanomizu University in Japan.

This program was also a good time to experience a lot of things because I want to study abroad for a long time. I could learn with the international students in the same class and have a small talk with them. Sometimes I talked with them. For example, they asked me about the Ochanomizu souvenirs in the cooperative. It was fun to be able to communicate with the foreigners.

I'm a freshman and my major is Information Science, so it was difficult for me to understand some lectures, which required special knowledge. I was glad to get the handouts in those classes. I wish I had got the handouts of all lectures.

The students could discuss the topics and exchange their opinions. Through these experiences, I think this lecture achieved its purpose of extending the hand of international friendship.

If summer program is held next year again, I would like to join the program. Until then, I study hard in various fields and brush up my English.

2) -----

We usually have little chance to take lecture in English, so I took this program. This time, most lectures were related to biology. I haven't listened to the lectures of other departments before. I worried about it before the program because I have some knowledge of basic biology and I'm not familiar with professional field. In fact, we could learn biology from the bottom up in some classes.

Though I have heard some lectures in Japanese, I felt them flesh by taking them in English. Besides, there were small experiments in two chemistry classes. Thanks to them, the contents I felt difficult till then changed to plain. I think the lecture presented by Prof. Yura was particularly interesting because the slide show was easy to understand the structure of proteins. It stimulated my intellectual curiosity. However, some lecture was so one-sided. I thought it was better to explain in simple terms.

Moreover, I was stimulated by studying with the students from another university. There were two students from Wuppertal University in our class. Their major is also chemistry, analytical chemistry. Doing experiments with them, I was impressed by those students.

On the whole, I was satisfied with this program. If there is a lecture on beauty of mathematics next time, I would like to take it.

3) -----

At the first time I saw the theme 'Form, Color and Beauty', it seems like lecture about general art.

I was so surprised and felt relaxed at the same time when I realized that this program is about scientific art. I like this point of view regarding science as a part of art.

Though, I am major in system information, it was interesting for me to learn different part of science. Especially, biology is one of my favorite subjects. What I've chosen as two assignments out of eight assignments are all about genetics. It is interesting when I think of our body consists of a number of very simple functioned cells and when it works together, it is I.

I was so satisfied with the contents of lectures, and also impressed with the relationship between professors and students. They communicated with each other in English fluently, and the relationship among them was not a kind of vertical relationship any more. They talked what they wanted to say and what they felt about the lecture and fed back also. I think that the atmosphere of class is very rare in the whole university of Japan. I really hope to participate this summer program next year again if it is okay to take it.

4) -----

I am studying math so I did not know chemistry, physics, biology and computer science at all. This time, I was able to think about these studies in English. There were many things I did not know and I thought that there are many things we have to research. I decided two things after I took the lectures throughout program theme II.

First, I decided to go on to a graduate school to study math. Before I took the lectures, I was going to study not math but any other fields of study in a graduate school. It was because I wanted to study not only math but other things as well. But after I took the lectures, I thought that it is very interesting and important to continue to study one fields of study. Now I want to know about math deeply. So I study math harder than before.

Second, I thought that I have to study English hard. Some of my friends were able to express themselves freely in English but I could not say smoothly what I thought. I went to England to study English five month ago so I can speak English better than before. But it is not enough. I study English continuously.

5) -----

In this summer program at Ochanomizu Univeristy, I was very excited to the attractive classes such as chemistry lecture where we performed simple experiments. From these interesting lectures, we had a variety of experiences.

First of all, I was provided a good opportunity to see various academic fields. Taking this program was enable me to learn the content which I don't usually see or consider deeply in my research, e.g. biology, chemistry and nutrition science. For example, when I was a junior high school student, I don't want to know biology because I had trouble in touching insects. Since then I'm not interested in biology. However I took lessons in biology in this program, I felt that it was interesting for me against all expectations, especially topics of formation of life's body and evolution. As the example above

shows, the program allows me to learn a lot of academic fields.

In addition, I was able to get a chance to listen English for a long time. This is very useful for me. Though I'm desired to speak or write in English at various places such as papers and international conferences, I didn't go through listening academic content in English. Therefore I had have no confidence in it, but through this program I developed self-confidence. Experience in this program will give assistance to me.

In conclusion, I consider that the experience in this summer program is very good for me. I would like to show my appreciation to it.

6) -----

I think this summer program was very good opportunity for me to study English. First I was distributed with participating in this program. Because I major in physics but there was only one lecture about physics and other lectures, especially pure biology, are I have never been interested in. However all lectures are performed in English by professors and the program is good chance to study other course of studies. So I decided to participate in the summer program.

Through the summer program, I realized some things.

First, I was very surprised at the difference of comprehension between the subject, which I am interested in, and the subject, which I am not interested in. I had thought I could understand English only I have knowledge of words and grammar before. But I found it wrong. I experienced it at the lecture of biology specifically. During the lecture of biology, I understood words the professor used but I didn't comprehend its meaning. While I was in the lectures of physics and chemistry, which I am interested in and I am taking or took the lecture at the university, I could comprehend the lectures on the whole. In these circumstances, I felt that background of knowledge is very important.

Second it was a pleasure to know other subjects. Before I mentioned, I am interested in only physics and physical chemistry. But I think my viewpoint was spread through this program. For example, I took no interest in biochemistry, but I take little interested in biochemistry after biochemical lecture. Information science is the same.

The last is that English explanation is more concise than Japanese one.

I think there are some reasons in the lecture for Japanese students. But every explanation in the lectures is plain. (There are few explanations that I couldn't comprehend...)

I think it is good for me to participate in summer program in this summer.

And I knew summer program was for graduate school students when summer program was all end! But it was very interesting and a pleasure!

I want to join the summer program next summer! And I hope to increase the lecture of physics in next summer program.

7) -----

I really enjoyed the summer program in Ochanomizu University.

In the program, it was unusual that our professor spoke English to the class. Then there were eight classes that have many kinds of topics. Since I major in Information Science, I didn't know much about biology, chemistry and cosmology. This made things difficult for me because I could not always understand what was being talked about. I think that I needed more preparation to help me to comprehend it, but it was a very interesting opportunity.

It has been my dream to become a good English speaker for a long time, but learning English is difficult for me. I know that my school days are my last chance to study English. So these days I try to improve my English skills.

There are a lot of students who want to be able to speak fluently, but I guess they each need to find their own motivation to work towards that goal. With that motivation in-hand, I believe Ochanomizu University offers those students the chance to fulfill their dream and work towards English fluency. Rather than being a one-off, I hope this program to simply be the first of many successful ones run by this university, so that future students can benefit as much from it as I have.

8) -----

I applied to participate in this program so casually. Since it was decided that I participate, I was very nervous about studying with English only. I'm not so good at listening, understanding and speaking English. I wanted to develop these skills by participating this program.

The lecture using English was really difficult for me. I was in trouble because scientific terms that I didn't know were often used. These terms aren't in ordinary dictionary, so I couldn't understand the parts of lecture using the terms. Some professor explained what the terms mean. I hoped that all of professors explained the meanings or gave us a list of them.

However this program was very interesting. I could know a lot of new things. I'm sorry I couldn't understand some lecture. I wanted to also attend these lecture by using Japanese. This program improved my interest in science. Moreover this program motivated me to work hard about English. I didn't feel my skills were developed, but I felt I had to develop them and want to do. Although I'm very weak in speech in front of many people, I could try it. Of course, it was poor, however that experience was precious for me.

Now I can use very little English, I will work hard and develop my English skill.

9) -----

The class was able to be attended happily through the entire course. Because the chance to touch English in daily life was few, this class was going to be taken and a lecture was attended. There were a lot of parts greatly different from the class of a usual university, and it was very interesting. It was very interesting to be able to learn the content of the field that might not be touched usually so much. I always study Biology. There is no chance to study other things. If I wasn't attend the class I could not

learn the thing like a Black hole. Moreover, there were a lot of place to question and the group work. It is different from usual class at this University. I felt the importance of the thing to have an opinion that not only listened in class but also was tidy. I can not good making my opinion. But I try to come to be able to make my opinion. I want to hope in the attitude of participating rather than listening in class when various classes will be attended, in the future. I want to attend a lecture if there is such a class again.

10) -----

In this time, I took lectures in English first time. At first, I was confused, because I don't understand teacher's instructions, and they told us to discuss with team members and to announce the result in the class. Of course, these activities were done in English. These were my first chances that I have not experienced before. I announced in the class with poor English. But my classmates listened to my announcement in silent and tried to understand what I was saying. Though I tensed up, I wanted to try it again. While classmates announced, I thought there are many things I can refer to them. First, announce with more loud voice, and raising my head. Second, don't hesitate to speak English.

In the party after this program, I talked with my two classmates from German. I can't have a chance to talk with them in this lecture, but in this party, they friendly spoke to me and take picture with other classmates and me. We talk a little, but it was so exciting time for me.

I don't understand all contents in this program. However, this experience that I was taught and announcing in English is my precious time for my future, I think.

11) -----

This summer program was very meaningful for me. Honestly, I was nervous before it begun because I did not have confidence in my English ability. However, once it began, all lectures were so interesting and exciting. The professors contrive the lectures such as using many figures, doing discussion or some experiments and they spoke in general words not in technical words. It made me easier to understand the contents of the lectures. I have few opportunities to take lectures of other department, so it was very valuable opportunity for me. Through this program, I found that there are many interesting topics in other fields.

In some lectures I have a time to discuss about the result of experiment or look through some books and discuss with classmates. It was difficult but I learned a lot from classmates. I also have several times to explain the result of group discussion or my idea in front of classmates. I did not have confidence in English output skills, so it was very good study for me.

I was very interested in studying abroad, but I did not know whether my English ability is enough to take and understand lectures in English or not. Therefore I think that it was great chance to try my English ability. I have become more and more to want to study abroad. Now, I would like to be a woman who is active in the world.

12) -----

The lectures were all about science topics and I enjoyed those classes.

At the first time, I was a little embarrassed because all explanation were spoken in English. However, it was a good chance to get used to hear English and ask questions in English. I decided to make an effort to improve my English skill more.

13) -----

This Summer Program was very meaningful for me. There are three reasons for that. First, I found it was a great experience to discuss with other students or make short presentations in English. Since there are few chances to use English all day long in my daily life, this program was good exercise to listen and think in English. Other students' presentations were also so stimulating that I felt I wanted to improve my English skill to communicate an idea. Second, it was fresh to receive English lectures about the fields which are not my major. All professors gave us thorough explanation, so I was able to keep up with the classes without any previous knowledge and to have a great deal of interest in each theme. This time, it was a little pity there was no class about brain science that studies perception or cognition of color, shape and beauty, which I'm interested in. If given the opportunity, I would like to get lectured about this theme. The third reason is Welcome Party and Farewell Party. I really enjoyed talking with other students, staff members, and professors. It became a favorite memory.

Thank you for planning this Summer Program. I definitely want to participate in this program again.

14) -----

Before I came to this program, I really worried about this because I didn't good at English and I have not take lessons in English like this before. But I was glad to understand some lectures. I think these lectures are too difficult for me to understand. The one reason is that most of lectures need specific knowledge to understand but I don't have enough knowledge about those. I major in chemistry, so I can understand lectures about chemistry, but I can't understand lectures about physics, biology, or something. And I also wanted to take lessons of theme I but I reconciled myself to my field because I thought maybe I cannot understand the things what I have not taught about these theme before. So if I can get some materials, photographs, or something, I also want to take lessons of theme I:

After this program, I think I need to study English harder. I want to be able to catch what they say more. I cannot speak but some friends speak to foreign student. I envied them. So, I started to practice English. This program taught me that I must study English. I want to participate this program next year and try to test me.

英語による教育WG

概念とWGの構成

WGの構成

- ❖ 榊原教授中心
- ❖ 担当事務チーム 教務、国際交流

主査	教育機構長		耳塚寛明
副査	先端融合系	教授	榊原洋一
	人間科学系(国際担当評議員)	教授	石井クンツ昌子
	人間科学系	准教授	申 琪榮
	文化科学系	教授	新井由起夫
	自然・応用科学系(教育担当評議員)	教授	小林哲幸
	教務チーム	TL	山本
	国際交流チーム	TL	引地

コース・イメージ

- ❖ 文理融合系列を1つ設置
- ❖ 夏期集中講義形式
 - ❖ 4日間(1科目)×2
 - ❖ あるいは、より柔軟な構成
- ❖ 学内教員が主(非常勤講師もあり得る)
- ❖ 将来的に文理融合リベラルアーツの系列として成立させることを視野

対象学生のイメージ

- ❖ 英語圏、アジアからの留学生（短期を含む）
- ❖ 本学学生
- ❖ 本学大学院生
- ❖ 科目等履修生（他大学学生等）

広報 学生募集

- ❖ 格段の広報 テキスト
- ❖ 協定締結大学への連絡・学生募集 短期集中留学 単位互換
- ❖ 学生宿舎の確保 授業料の便宜
- ❖ サンプル授業のpodcast配信

平成22年10月15日

教 員 各 位

学長 羽 入 佐和子
教育機構長 耳 塚 寛 明
英語による教育プロジェクトチーム

「英語による教育」についての教員アンケートへのご協力をお願い

キャンパスの国際化は日本の大学に課せられた喫緊の課題の一つであり、本学も例外ではありません。政策的には政府の「新成長戦略」において国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進が目指されていますし、そのための教育改革を進めることは学生のキャリアの選択肢を広げる上でも有益でしょう。本学ではこうした観点から、「英語による教育」プロジェクトチーム（WG）を発足させ、検討をお願いしてきました。

将来的には、英語で学位の取得が可能なコースの設置を目指しつつ、外国人学生のショートビジットを受け入れ、また本学学生のショートステイに備えるための、「英語による集中講座」の開設など、可能なことからはじめて行きたいと考えています。

ついては、英語による授業が本学でどのくらい可能か、またどんなテーマで可能かなどについて、教員対象の基礎的調査を下記により実施することにいたしました。

「担当可能」と回答すれば教育負担が増えるのではないかというご懸念もあろうかと思いますが、それについてはご負担に応じた対応を別途考慮する予定です。どうぞありのままにご回答下さいますようお願い申し上げます。

お手数をおかけいたしますが、ご協力いただきたくお願い申し上げます。

記

1. 提出方法： 添付の「英語による授業教員アンケート（回答用紙）」により回答いただき、次の①又は②のいずれかの方法で提出願います。
 - ① 回答いただいたアンケート用紙をプリントアウトの上、教務チーム山本（学生センター棟1階）へご提出願います。
 - ② 回答いただいたアンケート用紙をメールに添付の上、yamamoto.takashi@ocha.ac.jp（教務チーム山本）宛にご送信願います。
2. 提出期限： 上記①、②ともに、平成22年10月22日（金）

（本件の担当）教務チームリーダー 山本 隆 （内線 5138）

E-mail : yamamoto.takashi@ocha.ac.jp

「英語による教育」教員アンケート

ご氏名 _____

設問 1 : あなたはご自身の専門領域についての授業を英語でできますか？

- 1 : できる
- 2 : できない

設問 2 : あなたは英語による授業を行った経験がありますか？

- 1 : ある (経験内容 (〇〇college xx 学科など) : _____)
- 2 : ない

以下の設問は 設問 1 で「できる」あるいは設問 2 で「ある」を選んだ方にお聞きします。

設問 3 : あなたはご自身が英語で授業をしてもよいと思いますか？

- 1 : とてもそう思う
- 2 : そう思う
- 3 : あまりそう思わない
- 4 : 全くそう思わない
- 5 : 分からない (理由 : _____)

設問 4 : あなたが英語でできる授業についてお聞きします (複数回答可)

(A) 授業内容 (テーマ) は何ですか？ (_____)

(B) どのような授業形態ですか？

- 1 : オムニバス形式の集中授業の一部 (例 3 回分) の担当
- 2 : 集中講義ないし通常講義 15 回分 (選択科目)
- 3 : 既存の担当講義の英語化 (選択、必修)
- 4 : その他 (_____)

(C) レベルは？

- 1 : 学部レベル
- 2 : 大学院レベル
- 3 : 学部と大学院の両レベル

設問 5 : 英語による授業を行う場合、その教員にどのような業務軽減措置が適応されればよいと思いますか？ (例 : 委員会委員の免除など)

自由記述 (_____)

1. 専門領域の授業を英語で「できる」、かつ、英語による授業を行った経験が「ある」

33名

このうち、英語で授業をしてもよいと思いますか？

1：とてもそう思う	8	名
2：そう思う	17	名
3：あまりそう思わない	4	名
4：全くそう思わない	1	名
5：分からない	3	名

2. 専門領域の授業を英語で「できる」、かつ、英語による授業を行った経験が「ない」

21名

このうち、英語で授業をしてもよいと思いますか？

1：とてもそう思う	0	名
2：そう思う	6	名
3：あまりそう思わない	9	名
4：全くそう思わない	2	名
5：分からない	6	名

(複数回答2あり)

3. 専門領域の授業を英語で「できない」、かつ、英語による授業を行った経験が「ある」

→ 【ありえない回答か？】 名

4. 専門領域の授業を英語で「できない」、かつ、英語による授業を行った経験が「ない」

34名

5. その他

2名

22. 12. 7

簡単ではございますが、本日（22. 12. 7）開催の「英語による教育 WG」のメモを送付します。

1. 一橋大学 HGP(Hitotsubashi University Global Education Program)に関する訪問調査報告
2. 「英語による教育」長期的戦略案
3. 「英語による教育」教員アンケートの実施

- 現在検討している英語による教育に関して、その中期的な行動計画を今年度末頃までに策定する。
- 平成 23 年度の夏に実施を予定するサマー・プログラムに関するプログラムの骨子を、榊原先生と小林先生に作成願う。
そのプログラム骨子を作成した上で、『「英語による教育」教員アンケート』の回答者に、どんなプログラムが可能か、ヒアリングをすることも考える。
- 石井先生から提案のあった『「英語による教育」長期的戦略案』を今後検討していく。
- 次回、申先生から、「FD 戦略による教員海外派遣・調査」による韓国・梨花女子大学での調査の報告をお願いする。
- 学内で行うシンポジウムを英語で行ってはどうか、という意見があった。
- 現在大学院で検討している「出口戦略」の一環として、英語で行われている学術会議等への出席を単位授与の要件としてはどうか、という意見があった。
- 次回開催は、平成 23 年 1 月 11 日（火）12 時 20 分～（13 時 10 分）
場所：役員会議室（大学本館 1 階 1 3 7 室）

英語による教育プロジェクト（第6回）メモ

平成23年2月2日（水）10:00～

- ・榑原先生から文系科目の骨子
テーマ：家族、家庭、子ども、教育、仕事（労働）
オムニバス形式
3コマ×5日間
- ・小林先生から理系科目の骨子
テーマ：お茶の科学、『形・色・美』
オムニバス形式
4コマ×4日間
試験補講期間と重なるので1・2年生は無理？

趣旨：（英語）

日程：8月3日（水）～7日（日）

プログラム説明・担当教員

一般企業・大学相手の広報先 → 国際交流・教務チームで検討

学内企画書：3月の諸会議に通す

学生用パンフ：4月

学外用パンフ（送付先は？）：4月

企画書・パンフは大枠を教務+国際交流チームで作成し、授業に関する部分は教員に書き込んでもらう。

科目等履修生として受け入れる

「英語による授業」チラシ+科目等履修生募集要項 のイメージ

英語による教育プロジェクト（第7回）メモ

平成23年3月2日（水）10:30～

- ・日程 文系 8/1～8/4
理系 /～/
- ・応募人員 30名
- ・最終日にパーティ
- ・講師手当 1コマ 15,000円
- ・受験生は男も可
- ・これの応募する場合のビザの発給
- ・教室の確保（山本） 可動式、本館希望
- ・大学院に新たに科目をたてる。4科目（文系2、理系2）。科目の名称は検討する。
- ・広報・・・全大学宛に、ネット活用か郵便で。ポスターの作成（山本）。海外の協定校。

英語による教育プロジェクト（第8回） メモ

平成23年4月27日（水） 10:40～

- ・ 震災前に「企画経営統括本部会議」において、サマープログラムの実施を認めた。
- ・ その後、震災によりあらためて確認する必要がある。
- ・ 中止する理由がないこと、実施が可能なこと、大学院においてこのようなプログラムが重要になってくること、から実施することを確認した。
- ・ 実施にあたっては、冷房の使用を認めてもらうなど特別な措置も必要。
- ・ 日程 7/19～7/22
7/15～7/18
7/16～7/19
この3つの日程から文系、理系一緒の開催を検討する。
- ・ 理系のプログラム「形・色・美」の概要の説明（小林先生）
- ・ 授業科目の名称 学部は「総合科目」
大学院は新たに設置 → 学務部会でカリキュラム改正
- ・ 今後の日程
次回「英語WG」 5/12（木）10:40～ 実施案をまとめる
5/17 「企画経営統括本部会議」 概要書を提案
5/27 「部局長等連絡会議」 学内周知
- ・ 文系プログラムの検討
- ・ HPの整備
- ・ OCWとの関係
- ・ 英語による要項

英語による教育プロジェクト（第10回） メモ

平成23年7月6日（水）10:40～

- 受講学生への最終案内、最終出席者の確定
連絡事項をまとめた上で案内する。
- 期間中の事務対応組織 とくに留学生と他大学学生
教務チーム（山本TL）、ただし、海外からの留学生は国際交流チーム（引地TL）と連携
- ウェルカムパーティあるいは終わりのパーティの設定（いずれかは必須）、費用は大学が基本的に持つこと
 - ウェルカムパーティ 7月19日（火）12:20～13:00：大学食堂
学長挨拶、懇談、軽食と飲み物
 - 終了パーティ 7月22日（金）17:00～18:30：場所は教務で検討
会費徴収（1,000円）、
- 冷房は、市古総務機構長および吉田副学長に最終確認 使用可能を前提としてOK
- 成績評価の方法
テーマ毎に任せる。
シラバスで成績評価に関する説明が必要 → 学生に周知
- 教員へのインセンティブ
特別経費（学士課程）から、一人10万円として14名分措置。ただし、配分するのではなく、用途を申し出てもらう。特別経費（学士課程）に沿った使い方をする必要があるため、事前に用途を相談いただく。
- OCWのための録画の件 担当教員への了解を得る方法の確認
榊原先生と小林先生に代表をお願いすることし、おふたりの先生にOCW申請用紙を渡し、取りまとめていただく。ただし、運営は教育開発センターで行う。
- 実施期間中、保健管理センターに対応を要請しておく。
- 来年以降の実施については、このサマープログラムの継続を前提とし、プラスアルファを実施する。

英語による教育プロジェクト（第11回）メモ

平成23年11月4日（金）12:20～13:30 場所：大学本館第2会議室

- 今回の実施状況の報告。
- 文系（テーマ1）、理系（テーマ2）それぞれ、実施担当教員から聴取した意見、課題、反省点を報告。
- サマープログラムだけの交換留学の可能性がある。
その場合には、4日間の日程は短い、最低1週間（5日間）か。
どのような授業内容が求められるのか。
寄宿舍は、大山の国際学生宿舎で対応可能。
- 学生への授業アンケートを実施すべきであった。
これから実施することも可能。
- OCW に関しては、来年、同じ内容の講義をする可能性があり、その講義は公開できないことになる。
ダイジェスト版とすることで公開できる。（テーマ1（文系）及びテーマ2（理系）各30分程度）
- 学部のレベルと大学院のレベルで、講義の内容が違ってくるのではないか。
- 今年度の2テーマを増やすことを検討してはどうか。
3テーマ又は4テーマにできるのでは。
新任の教員に適任者がいる。
人文科学（日本語教育）の分野での新規開設が可能。
- 開講期間を4日間から5日間に延長してはどうか。
- 中長期的な展望として、目標を設定する。
何か、数値化出来ないか。
このプログラムの必修化を検討する。
中長期のスケジュールを策定する。
- ◆ 来年度に向け、実施の原案を以下により作成し、
次回開催を12月8日（木）12:20～13:10 とし、
検討することとする。
 - (1) 3コースを開設
 - ・今年度のテーマについては人選をする。
 - ・新規のテーマは新井先生に検討をお願いする。
 - ・各コースの概要案を作成する。
 - (2) 開講日程は、7月の授業期間終了の平成24年7月23日（月）～27日（金）の5日間を第1案とする。
 - (3) 募集戦略の検討
 - ・募集日程、募集方法を策定する。（山本教務 TL・引地国際交流 TL）
 - ・JASSO 留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）への申請
 - (4) OCW 公開の検討

別記様式

平成23年2月 日

国立大学法人

お茶の水女子大学長 殿

教育機構長

申請責任者 耳塚寛明 印

プロジェクトチーム設置申請書

1. プロジェクトチーム名 (略称)	英語による教育プロジェクトチーム (略称 英語による教育WG)		
2. 目的及び検討課題	大学のキャンパス国際化が求められている中、本学学生と交流協定締結校からの留学生をターゲットとした英語による授業開講の可能性を検討し、プログラム開発、広報手段の検討等を行う。		
3. 設置期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日		
4. 構成員名	氏名	所属	身分
(構成員のうち、役職指定として参画する場合は、所属、身分及び氏名を記入してください。それ以外の場合は、氏名のみを記入してください。)	プロジェクトチームリーダー 耳塚 寛 明	教育機構長	教育機構長
	サブリーダー 榑 原 洋 一		
	石井 クンツ 昌子	国際・研究機構	国際担当評議員
	申 琪 榮		
	新 井 由紀夫		
	小 林 哲 幸	教育機構	教育担当評議員
	山 本 隆	教務チーム	チームリーダー
	引 地 朋 彦	国際交流チーム	チームリーダー
5. 備考			

平成22年6月28日

国立大学法人

お茶の水女子大学長 殿

教育機構長

申請責任者 耳塚寛明 印

プロジェクトチーム設置申請書

1. プロジェクトチーム名 (略称)	英語による教育プロジェクトチーム (略称 英語による教育WG)		
2. 目的及び検討課題	大学のキャンパス国際化が求められている中、本学学生と交流協定締結校からの留学生をターゲットとした英語による授業開講の可能性を検討し、プログラム開発、広報手段の検討等を行う。		
3. 設置期間	平成22年 月 日～平成23年 3月31日		
4. 構成員名	氏名	所属	身分
(構成員のうち、役職指定として参画する場合は、所属、身分及び氏名を記入してください。それ以外の場合は、氏名のみを記入してください。)	プロジェクトチームリーダー 耳塚 寛 明	教育機構長	教育機構長
	サブリーダー 榑 原 洋 一		
	石井 クンツ 昌子	国際・研究機構	国際担当評議員
	申 琪 榮		
	新 井 由紀夫		
	小 林 哲 幸	教育機構	教育担当評議員
	山 本 隆	教務チーム	チームリーダー
	引 地 朋 彦	国際交流チーム	チームリーダー
5. 備考			